



平成 23 年 5 月 11 日

各 位

会 社 名 株式会社ソフト 9 9 コーポレーション
代表者名 代表取締役社長 渡辺 泰
(コード番号 4 4 6 4 東証第二部)
問合せ先 取締役グループ経営企画室長 田中 秀明
(TEL. 0 6 - 6 9 4 2 - 8 7 6 1)

中期経営計画 Spiral Up “FINAL” について

当社は、平成 20 年 4 月よりスタートした Spiral Up “NEXT” を平成 23 年 3 月に終了し、新たに平成 23 年 4 月より中期経営計画 Spiral Up “FINAL” を策定してスタートいたしました。

前中期経営計画 Spiral Up “NEXT” は、その期間中、世界的な金融危機やそれに端を発する経済活動の停滞など、不確実性の高い事業環境の中で、当初策定した計画には届かず、課題を残しました。

当社は、Spiral Up “NEXT” の目標を当面目指すべき姿であるとの認識に立ち、できるだけ早くその目指す姿に到達すべく、Spiral Up “NEXT” の趣旨を引き継ぎ、新しい中期経営計画 Spiral Up “FINAL” を策定いたしました。

中期経営計画の概要

1. 名 称 : Spiral Up “FINAL”
2. 期 間 : 平成 23 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日 (3 ヶ年)
3. 経営理念

「生活文化創造企業」

経営理念は、普遍的なものと再定義し、創業以来掲げていた経営理念に原点回帰。

4. 経営ビジョン

未来の『あたりまえ』を発見する

『あたりまえ』とは

一過性のブームに終わらない、お客様に長く愛される製品・サービス

『発見』とは

発明＝ハイテク製品ではなく、日常生活からお客様に支持される製品・サービスを見つけ出す

- ・・・顧客の目線を常に意識し、創意工夫をもって、いつのまにか『あたりまえ』となるような、製品・サービスを創出し続けることで、事業の拡大を目指す。

5. 前中期経営計画 Spiral Up “NEXT” の振り返り

基本方針：付加価値の創出を意識した“新しいこと”へのチャレンジ

(売上高)

単位：百万円

	計 画(当初)	実 績	差 異
ファインケミカル	10,150	9,837	▲313
ポーラスマテリアル	5,800	4,502	▲1,298
サービス	4,780	5,126	+346
不動産関連	2,270	1,418	▲852
グループ計	23,000	20,884	▲2,116

(営業利益)

単位：百万円

	計 画(当初)	実 績	差 異
ファインケミカル	600	832	+232
ポーラスマテリアル	1,000	475	▲525
サービス	300	297	▲3
不動産関連	100	289	+189
グループ計	2,000	1,904	▲96

- ・ファインケミカル+サービス 製品とサービスの融合による付加価値創造に成果。
- ・ポーラスマテリアル 金融危機後の半導体業界の停滞を引きずり苦戦。
- ・不動産関連 不採算の温泉店舗の売却で売却店舗分の売上が計画齟齬。一方赤字が無くなり、営業利益は計画を上回る。

(経営諸指標)

	計 画	実 績	差 異
売上高営業利益率	8.7%	9.1%	+0.4pt
営業利益の伸長率(※)	35.4%	28.9%	▲6.5pt
ROA(経常利益/総資産)	4.7%	4.9%	+0.2pt
ROE(純利益/純資産)	3.0%	3.0%	±0.0pt

※中期経営計画“Spiral Up’05”(H18～H20年)末比

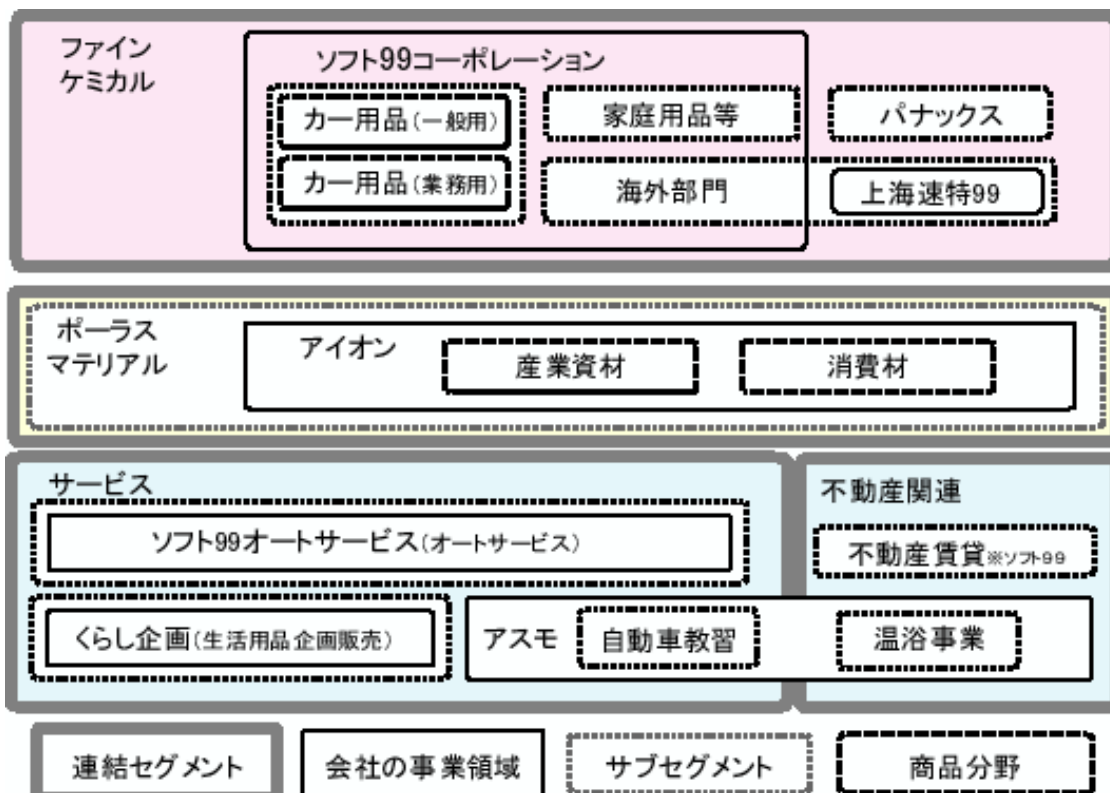
- ・売上の計画齟齬は大きかったが、営業利益のマイナス幅を縮小したことで、営業利益率は計画を上回る。
- ・営業利益率の増加に伴って、ROAについても計画を上回ったが、特別損失の計上により当期純利益が減少し、ROEについては計画線となる。

このように事業規模の拡大に課題を残しましたが、利益面については新しいことへの挑戦により、一定の成果が現れました。また資本効率の改善は進むも課題が残っていると認識しております。

6. 新中期経営計画 Spiral Up “FINAL” 基本方針

- ・成熟化した国内市場において、付加価値の高い製品・サービスを提供
- ・拡大し続ける新興国市場に積極的に参入し、事業の拡大をはかる
- ・未来の『あたりまえ』を発見するため、技術・ノウハウ蓄積と用途開発を推進する
- ・社会の要請に応え、正当な評価を受ける企業集団を目指す

7. ソフト99グループの事業イメージ



「ファインケミカル」：主に自動車用化学品の製造及び販売

カー用品（一般用）……………洗車用品（カーワックス等）、自動車補修・整備用品

カー用品（業務用）……………自動車用コーティング剤とその周辺用品

家庭用品等……………家庭用清掃用品、メガネのお手入れ用品等

海外部門……………主に海外向けカー用品（一般用・業務用）

「ポーラスマテリアル」：主にポリビニルアルコール等の精密多孔質体の製造及び販売

産業資材……………工業用の吸水・洗浄材、研磨材、濾過材

消費材……………スポーツ用品、カー用品等

「サービス」

オートサービス……………自動車整備・钣金塗装、リース・レンタカー

自動車教習……………自動車教習所の運営

生活用品企画販売……………生活協同組合（生協）向けチラシ企画、商品卸売

「不動産関連」：当社保有不動産の有効活用

不動産賃貸……………主に本社・東京支店の空きフロアの賃貸

温浴……………スーパー銭湯の運営

8. セグメント別事業戦略

ファインケミカル

①カー用品

一般消費者向けのカー用品につきましては、近年市場規模が縮小傾向であったものが底を打ち、特長のある高付加価値製品などの販売は増加基調にあります。そのような中、販売を拡大してきた『ガラコワイパー』については、ガラス用撥水剤との組み合わせの提案を進め、商品認知を高めるとともに、現在取り扱いの無い店舗への提案活動を強化いたします。また、シェア拡大余地のある洗車関連やタイヤお手入れ製品の高付加価値な新製品を積極的に投入してまいります。

そして、一時縮小していた芳香・消臭剤分野に再参入をして事業の拡大を目指すとともに、新しいカー用品販売チャネルの開拓や、時代に即したカー用品売場の提案活動を進めてまいります。

業務用のカー用品につきましては、当社固有技術である機能性薄膜技術を用いたコーティング剤を中心に事業を拡大してまいりました。今後は、コーティング剤の更なる性能向上をすすめて顧客満足度を高めるとともに、コーティング剤以外の美装用ケミカルの市場導入や自動車整備業界に対する美装サービスの提案をはかるとともに、自動車向けコーティング剤の技術を活用した自動車用途以外の製品開発を進めてまいります。

②家庭用品等

カー用品の技術を活用した家庭用品につきましては、『メガネのシャンプー』を中心に事業の拡大をはかってまいりました。今後も『メガネのシャンプー』を中心に製品を拡充して、メガネのお手入れ用品市場の確立を目指すとともに、家庭用品の販売チャネルであるドラッグストア向けに、女性向けカー用品の展開や、メガネお手入れ用品に続く、特長のある新製品を導入して、ニッチ市場の確立をすすめ、事業の拡大を目指してまいります。

③海外事業

ソフト 99 ブランド製品の海外での販売を手がける海外事業においては、拡大する新興国である東南アジア市場での拡販や、日本で構築しつつある美装ビジネスの海外展開、そしてロシア市場での拡販をすすめ、また上海工場での生産品目を増やして、拡大する中国市場へ向けた製品を拡充してまいりました。今後も中国、東南アジア、ロシアを軸に更なる事業拡大に取り組むとともに、ポーラスマテリアル事業と協調し、他の新興国を新規仕向先として開拓して、事業の拡大を目指してまいります。

ポーラスマテリアル

ポリビニルアルコール（PVA）素材をはじめとする精密多孔質体を半導体や液晶の製造工程の洗浄・吸水・搬送用途や、カー用品、スポーツ用の拭き取り材として製造・販売するポーラスマテリアル事業は、金融危機後の半導体業界の低迷により苦戦を余儀なくされました。またそのような状況の中、『新しいこと』への取り組みも遅れて本格的な回復には至っておりません。

今後は、課題を残した『新しいこと』への取り組みを加速し、太陽電池やLED基板といった先端分野向けの用途開発のみならず、消費者向けの製品開発などの先端分野以外の用途開発も積極的に行い、特定の業界の業況に左右されにくい経営基盤の確立を目指します。

サービス・不動産関連

①オートサービス事業

钣金塗装と整備車検を中心にした自動車関連サービス事業については、平成 21 年 1 月と 3 月に新工場を立ち上げ、新規顧客の開拓や損保会社からの紹介誘導サービスの強化など、近畿圏における事業基盤の確立に努めました。今後は未開拓の首都圏市場において、平成 24 年に完成する新工場を基点に新規顧客の開拓を進めてまいります。

②生活用品企画販売事業

生活協同組合（生協）向けの家庭用品の商材発掘とチラシの企画を行う、生活用品企画販売事業については、得意先である生活協同組合（生協）の宅配事業の苦戦が続く中で、カタログ通販や量販向け卸、インターネット通販などのチャネル開拓を進めてまいります。

③自動車教習事業

教習所事業は、経営資源の最適化を目指して効率的な運営を行うため、大型免許や企業の安全運転講習などのメニューを充実して、繁閑を最小限にする運営を目指します。

④温浴事業

温浴事業については、引き続きサービスの向上と飲食メニューの拡充により、顧客満足度を高め、地域のやすらぎコミュニティづくりに努めてまいります。

新規事業

中期経営計画の計数計画には反映しておりませんが、当社は、事業の拡大による資本効率の改善が課題であると認識しております。『当社が目指す姿』へ向けた事業拡大のため、今後も既存事業とシナジーを見込むことができる分野や、グループの事業を支える新しい柱として、新事業への投資や M&A を通じた事業規模の拡大、収益力の向上を目指し、売上高 50 億円、営業利益 5 億円を目標として、取り組んでまいります。

9. セグメント別事業計画

(単位：百万円)

	H23/3 (実績)	H24/3 (予想)	H26/3 (計画)	H23/3 比	当社が 目指す姿	H23/3 比
売上高	20,884	20,900	23,000	+2,116	28,000	+7,116
ファインケミカル	9,837	9,450	10,600	+763		
ポーラスマテリアル	4,502	4,800	5,400	+898		
サービス・不動産	6,544	6,650	7,000	+456		
営業利益	1,904	1,700	2,300	+396	2,800	+896
ファインケミカル	832	650	1,060	+228		
ポーラスマテリアル	475	550	700	+225		
サービス・不動産	586	500	540	△46		
経常利益	2,076	1,850	2,450	+374	2,900	+824
当期純利益	1,104	1,100	1,500	+396	1,750	+646
純資産	37,862	38,650	40,800	+2,938	43,200	+5,338
総資産	42,258	43,000	45,200	+2,942	47,500	+5,242
ROA(経常利益/総資産)	4.9%	4.3%	5.5%	+0.6pt	6.2%	+1.3pt
ROE(純利益/純資産)	3.0%	2.9%	3.7%	+0.7pt	4.1%	+1.1pt
総資産回転率	0.49	0.49	0.51	+0.02	0.59	+0.10

10. 株主還元

更なる株主重視の経営を目指し、安定的な配当の継続を基本方針とする。

連結当期純利益の25%以上を目処とした配当政策を実施する。

内部留保については、将来の事業拡大と経営体質の強化のための投資に活用。

	H23/3 (実績)	H24/3 (予想)	H26/3 (計画)	H23/3 比	当社が 目指す姿	H23/3 比
当期純利益(百万円)	1,104	1,100	1,500	+396	1,750	+646
1株当たり当期純利益(円)	51.08	50.89	69.40	+18.32	80.96	+29.88
1株当たり配当金(年間:円)	14.0	14.0	17.5	+3.5	22.0	+8.0
配当性向(%)	27.4%	27.5%	25.2%	▲2.2pt	27.2%	▲0.2pt
年間配当額(百万円)	302	302	378	+76	475	+173
純資産配当率(%)	0.8%	0.8%	0.9%	+0.1pt	1.1%	+0.3pt

以上

本資料記載の将来の業績見通しは、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成した物であり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。